

長野県植物誌改訂 研究史資料 12：高橋秀男

中村 千賀*

長野県にゆかりのある植物研究者を紹介する連載として、今回は大町市出身の高橋秀男氏（写真1）を紹介する。本稿には神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館員で横浜植物会会長の勝山輝男氏より貴重な原稿をいただいた。また資料の収集には神奈川県立生命の星・地球博物館の石田祐子氏と田中徳久氏、横浜植物会の渡辺重彦氏、長野県環境保全研究所の尾関雅章氏にご協力をいただいた。長野県植物研究会副会長の大塚孝一氏、大町市山岳博物館の千葉悟志氏には有益なご助言をいただいた。これら各氏に厚く御礼申し上げる。なお、植物の学名はYList（米倉浩司・梶田忠（2003-）「BG Plants 和名－学名インデックス」、2024年1月8日確認）に準拠した。

高橋秀男氏（1935-2019）略歴

1935年、大町市生まれ。長野県大町南高等学校卒業後、1953年から大町山岳博物館の職員を務める。主に山岳域での植物やライチョウの研究で活躍。1965年に神奈川県立博物館準備事務局に移り、1967年3月に開館した神奈川県立博物館学芸員となる。1985年4月～1994年3月まで同館の学芸部長を務める。その後、自然系博物館開設準備室等を経て、1995年1月から2000年3月まで神奈川県立生命の星・地球博物館で非常勤職員を務める。2000年4月からは同館の名誉館員。また、1995年より横浜植物会会長を務める。専門は植物分類、植物地理、地域植物誌、北アルプス山系のフロラ、フォッサ・マグナ要素の植物、キバナノコマノツメ類・タカネスミレ類の分類学的研究など。2019年1月死去（84才）。

高橋秀男氏は昭和10年（1935）に大町市に生まれた。長野県大町南高等学校（後の大町高等学校、現在大町岳陽高等学校）在学時に生物部に所属し、顧問である羽田健三氏（1921-1994、後の信州大学教育学部教授）の指導の下、大町市街から居谷里湿原、さらに北アルプス針ノ木岳、白馬岳、八方山など広く植物調査を行っている。この時採集された標



写真1. 高橋秀男氏。

2018年10月撮影。提供 横浜植物会

本が、現在大町山岳博物館（以降「山博」と記す）に収蔵されている。

高校卒業後の昭和28年（1953）に山博の臨時職員として就職し、後に正規の学芸員となった。山博は地元の公民館青年部による博物館設立の構想をもとに、郷土の特殊性を活かし、日本初の山岳をテーマとした総合博物館として、昭和26年（1951）11月に開館している。昭和36年（1961）には日本初となる本格的なライチョウの生活史の調査が、信州大学と山博職員らで構成する北ア動物生態研究グループにより爺ヶ岳において行われた。この調査には延べ860名が動員されたが、高橋氏も主要メンバーの一人として参加している。昭和38年（1963）3～4月に行われた初の冬季調査は、高橋氏と平林国男氏、千葉彬司氏の3名の山博職員によって行われたが、通信連絡をする自衛隊員、地元山岳会員などによる支援隊員の助けを受けつつ、40日間にも及ぶものであった。この際、高橋氏は隊長として調査隊を率いている。これらの調査によってライチョウの生活史の多くの部分が明らかになり、現在に続く、ライチョウの飼育や保護活動の基礎が築かれた。

高橋氏は主に高山植物を専門としていたが、山博の機関紙「山と博物館」の記事からは、ライチョウの生態や北アルプスの登山の歴史、さらに山菜の利

* 長野市立博物館分館 戸隠地質化石博物館
〒381-4104 長野県長野市戸隠栃原 3400

用など、総合博物館の学芸員として、幅広く活躍していたことがわかる。また、野外での写真撮影の技術に優れており、「山と博物館」の表紙を飾る山岳写真の多くは氏が撮影したものだったそうである。氏はまた「大町山の会」に属し、針ノ木岳周辺のバリエーションルートの開拓に力を発揮し、自然公園指導員、全国山岳連盟二種指導員として自然保護や遭難救助活動など、広く活躍した。さらに、昭和34年(1959)7月に横浜市立大学探査会・山岳部合同調査隊が行った、2週間に及ぶ知床半島縦走に同行している。隊の移動をはばむハイマツの樹林や水不足、蚊の大群の襲来に苦労しつつ植物調査を行い、夏季初となる縦走走破に貢献したことは、「山と博物館」の記事の他、同行した朝日新聞社記者の本多勝一による「北海道探検記」(1981)にも記されている。

昭和40年(1965)に神奈川県立博物館(以降「神奈川県博」と記す)に移った後も、長野県内の山岳域での研究は続いた。白馬岳・後立山連峰(1969)、高瀬川上流部やその周辺の山岳(1974)、木曾山脈(1979)、常念山脈(1981)などのフロラ研究の成果を次々と発表し、大町市史(1984)や八坂村誌(1993)、白馬村誌(1996)では植物の項を執筆している。また、長野県植物誌(1997)においても、ウマノスズクサ科、ヤマゴボウ科、スベリヒコ科、ザクロソウ科、アオイ科、ヤブコウジ科、ツチトリモチ科、マチン科、アワゴケ科、フジウツギ科、ゴマノハグサ科、ハマウツボ科の12科(うちウマノスズクサ科は菅原敬氏との共著)を担当し、「長野県の植物地理第2章3.大町市,北安曇地区」を平林国男氏とともに執筆している。

これらの調査・研究から以下の2種、1亜種、5変種、3品種を、県内産標本をもとに命名している。アズミイヌノヒゲ *Eriocaulon mikawanum* Satake et T.Koyama var. *azumianum* Hid.Takah. et Hid.Suzuki (現在エゾホシクサ *E. miquelianum* Körn. var. *monococcon* (Nakai) T.Koyama ex Miyam. のシノニム, ホシクサ科)、アカイシリンドウ *Gentianopsis furusei* Hid.Takah. (現在 *G. yabei* (Takeda et H. Hara) Ma ex Toyok. var. *akaisiensis* T. Yamaz. のシノニム)、ハッポウタカネセンブリ *Swertia tetrapetala* Pall. subsp. *micrantha* (Takeda) Kitam. var. *happoensis* Hid.Takah. ex T.Shimizu、シロバナタカネセンブリ *Swertia micrantha* f. *leucantha* Hid. Takah. (現在 *S. tetrapetala* Pall. subsp. *micrantha* (Takeda) Kitam. f. *leucantha* (Hid.Takah.) T.Shimizu

のシノニム、以上リンドウ科)、アカイシキバナノコマノツメ *Viola biflora* L. var. *akaishiensis* Hid. Takah. et Ohba、ヤツガタケキスミレ *Viola crassa* Makino subsp. *yatsugatakeana* Hid.Takah. (写真2. 以上スミレ科)、イナサツキヒナノウスツボ *Scrophularia musashiensis* Bonati var. *ina-vallicola* Hid.Takah. (ゴマノハグサ科)、コケゴメグサ *Euphrasia kisoalpina* Hid.Takah. et Ohba、イナコメグサ *Euphrasia multifolia* Wettst. var. *inaensis* Hid. Takah. (以上ハマウツボ科)、ハッポウウスユキソウ *Leontopodium japonicum* Miq. f. *happoense* Hid. Takah. ex T.Shimizu (キク科)、ミヤマナデシコ *Dianthus shinanensis* (Yatabe) Makino f. *alpinus* Hid. Takah. ex T.Shimizu (ナデシコ科)

特にスミレ科キバナノコマノツメ類とタカネスミレ類については、北海道や富山県産のものなどを含め体系的に分類・整理し、上記のアカイシキバナノコマノツメ、ヤツガタケキスミレの他、ジョウエツキバナノコマノツメ *Viola biflora* L. var. *biflora* f. *glabrifolia* Hid.Takah.、オオタカネスミレ *V. biflora* L. var. *vegeta* (Nakai) Hid.Takah.、クモマスミレ *V. crassa* Makino subsp. *alpicola* Hid.Takah.、エゾタカネスミレ *V. crassa* Makino subsp. *borealis* Hid. Takah. を記載しており(高橋1974)、現在も支持されている。

また、山地から高山の植物としては、上記以外にジョウシュウアマドコロ *Polygonatum planifolium* Kitag. et Hid.Takah. (現在アマドコロ *P. odoratum* (Mill.) Druce var. *pluriflorum* (Miq.) Ohwi のシノニム, クサスギカズラ科)、シロバナサンブクリンドウ *Comastoma pulmonarium* (Turcz.) Toyok. subsp. *sectum* (Satake) Toyok. f. *albiflorum* Hid.Takah. (リンドウ科)を命名している。また、テマリフジアザミ *Cirsium hideotakahashii* Kadota (キク科)、ハッポウワレモコウ *Sanguisorba* x *takahashihideoi* Naruh. (カライトソウ×ミヤマワレモコウ, バラ科)の学名は発見者である高橋氏へ献名されたものである。

一方、神奈川県博へ移った後、伊豆諸島を含むフォッサ・マグナ地域の植物についての調査研究を進め、その成果を神奈川県立博物館調査研究報告自然科学第2号に「フォッサ・マグナ要素の植物」(1971)としてまとめた(写真3)。これは前川文夫東大教授(1908-1984)の「日本の植物区系」(1977)にも掲載されている。

また1979年には、同じく神奈川県博学芸員の大場達之氏(1936-2020)とともに「神奈川県植物

成 16 年（2004）には、環境保全の推進のために多年にわたり顕著な功績のあった団体として、環境大臣から「環境保全功労者表彰」を受けている（写真 4）。

毎年 4 回発行される横浜植物会の会報の中で、高橋氏は会長就任後から「植物観察ノート」を 64 回連載している。1000 字ほどのコラムであるが、身近に見られるようになったミチタネツケバナ *Cardamine hirsuta* L. などの外来種から、伊豆諸島など調査地で見られた植物などについて、特徴的な形態だけでなく研究史なども含めて幅広く記述している。長野県内で発見されたアズミノヘラオモダカ *Alisma canaliculatum* A.Braun et C.D.Bouché var. *azuminoense* Kadono et Hamashima や八方尾根の植物にも触れている。また、高橋氏らが監修し横浜植物会が編集・発行した「横浜の植物」（2003）は、「神奈川県植物誌 1988, 2001」と同程度の厚みをもつ充実した内容の地域植物誌となっている（写真 3）。

さまざまな植物の分類群に精通されていた高橋氏は、多くの植物図鑑の執筆や監修を手掛けている。今回確認できたものだけで 33 冊あったが、それらの多くが植物の初心者や子どもを対象にしたものであった。例えば高橋氏が執筆した高山植物図鑑である「高山植物ウォッチング 図解ハンドブック」（日本交通公社 1990）では、植物をまず花の色や形から配列し、似た植物では検索表と識別点の図とを併記して現地ですぐに同定できるよう工夫されている。また氏が監修・解説をした山溪ハンディ図鑑シリーズの「樹に咲く花」（離弁花 1,2 2000, 合弁花・単子葉・裸子植物 2001）では、近縁種等の比較のために部分写真を表形式で並べる工夫がなされ、「従来の図鑑にはない積極的な試み」と評価された（山崎・大場 2000）。こうした配慮は市民による植物誌調査を率いてきた博物館学芸員としての経験が活かされていると想像される。これらの図鑑の中には改訂版、新版などの版を重ね、長く愛されているものも多い。

高橋氏は大町の山博に勤めて 8 年目の 1961 年（当時 26 才）に、同館機関紙「山と博物館」の開館 10 周年の記念紙に、「山博学芸員の仕事」という短い記事を載せている。そこには、少ない人員と予算の中で、博物館の運営や調査、展示などの多岐にわたる業務をこなし、大変多忙であるが、「みな好きな道故（ゆえ）、学芸員は丸一となつてあらゆる悩みもファイトで克服して館務をまっとうすることに生き甲斐を感じている。」と書かれている。い



写真 4. 環境保全功労者等表彰式で環境大臣と写る高橋秀男氏。

2004 年 6 月 7 日撮影。提供 横浜植物会

つの時代も博物館が抱える悩みや職員の心意気は同じであることを実感するとともに、ライチョウの生活史の解明や神奈川県植物誌の刊行など、大きな事業の中核として活躍し、後世に引き継がれる功績を残してきた高橋氏の生き方を、同じく博物館に勤める身として心から尊敬し、またうらやましく思う。「学芸員は雑芸員」などと揶揄されることもあるが、その状況の中でも、自分を育ててくれた地域のために、将来につながる仕事がなせればと思う。

本稿は高橋氏の著作と、以下の文献をもとに執筆した。

- 羽田健三（1961）ライチョウ調査によせて思うこと．山と博物館 6(10):2-5. 市立大町山岳博物館
 平林国男（1963）爺ヶ岳雷鳥調査行（1）．山と博物館 8(4):2-5. 市立大町山岳博物館
 平林国男先生遺稿集刊行会編（2006）ナーゲルとキスリングとー平林国男先生遺稿集一．ほおずき書籍
 本多勝一（1981）北海道探検記．集英社
 伊藤洋（1988）神奈川県植物誌調査会（編）：神奈川県植物誌 1988．植物研究雑誌 63(11):364
 神奈川県植物誌調査会編（1988）「神奈川県植物誌 1988」刊行！．FLORA KANAGAWA 25．神奈川県植物誌調査会
 神奈川県植物誌調査会編（2018）神奈川県植物誌 2018．神奈川県植物誌調査会
 市立大町山岳博物館編（1965）博物館ニュース．山と博物館 10(1):4. 市立大町山岳博物館
 田中徳久（2019）高橋秀男氏，ご逝去．FLORA KANAGAWA 86:1026
 田中徳久（2023）神奈川県での牧野富太郎．自然

科学のとびら 29(3):18-19

山崎敬・大場秀章（2000）茂木透（写真），石井英美ほか（解説）：樹に咲く花離弁花．2000．山と溪谷社．植物研究雑誌 75(4):264

横浜植物会編（2019）特集 高橋秀男先生追悼集．

横浜植物会年報第 48 号．横浜植物会

横浜植物会編（2020）横浜植物会年報第 50 号（特別号）横浜植物会の歴史—創立 111 周年記念誌—．横浜植物会

次に、神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館員で横浜植物会会長の勝山輝男氏による、高橋氏の思い出を掲載する。

高橋秀男先生の思い出

神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館員
勝山 輝男

私と高橋先生との最初の出会いは 1979 年 3 月の神奈川県植物誌調査会の設立総会である。当時、私は大学を卒業して神奈川県立鶴見高校の生物教師になって 1 年がたった頃である。『神奈川県植物誌 1988』の調査で集めた標本について、わからない種類があると、当時の県立博物館で高橋秀男先生や大場達之先生に教えていただいた。両先生ともにどの科の植物にも精通されていたが、当時の県博では高橋先生が双子葉植物、大場先生が単子葉植物を分担していたようだ。

当時の高橋先生の執務室は県立博物館の地下室（1 階）にあった。同じ階の建物中央には旧正金銀行の金庫があり、県立博物館の人文系の収蔵庫として使われ、その前の広場は荷捌き室となっていた。植物誌調査で集められた標本が県立博物館に集積されるようになると、荷捌き室に標本箱が並べられて仮の標本庫になった。1985 年に高橋先生が学芸部長になられた頃からは、教員を退職された守屋淳一先生や城川四郎先生が非常勤で勤務され、高橋先生や大場先生とともに荷捌き室で植物誌標本の同定や整理が行なわれていた。ときどき、調査会顧問の靱山泰一先生が来られ、不明植物や収まりの悪い分類群の話で盛り上がった。当時のことが懐かしく思いだされる。

『神奈川県植物誌 1988』では高橋先生は当時住んでおられた相模原市や清川村の調査を担当され、多数の標本を採集されている。その後、横浜市栄区に移られ、横浜市南部の調査も精力的に行われ

た。執筆はユリ科、ツチトリモチ科、ケシ科、フウチョウソウ科、ベンケイソウ科、トベラ科、ユキノシタ科の草本、カタバミ科、リンドウ科、ミツガシワ科、イワタバコ科、オオバコ科、キク科アザミ属と多数の分類群を担当された。植物誌の刊行が決まり、原稿の執筆がはじまると、私は学校の勤務が終わった後に県立博物館に通い、標本の閲覧や文献調査を行った。特に編集作業の際には夜遅くまで作業を行った。お酒が好きな高橋先生とは帰りに野毛に寄って飲んで帰ることもあった。植物の分類や神奈川県立の植物相については、この頃に多くのことを学ばせていただいた。

『神奈川県植物誌 1988』刊行後、大場先生が千葉中央博物館の副館長になられ、私はその後任として 1989 年（平成元年）4 月より神奈川県立博物館に赴任した。新米学芸員の私は学芸部長の高橋先生からさまざまな面でご指導いただいた。1993 年～1995 年には丹沢大山自然環境総合調査があり、丹沢山地の蛭ヶ岳、桧洞丸、西丹沢などによくいっしょに登った。高橋先生は 1995 年に県立博物館を定年退職されたが、その後も非常勤として新設される県立自然史博物館の準備室を経て生命の星・地球博物館に 2000 年まで勤務され、『神奈川県植物誌 2001』の刊行にも貢献された。この頃は 1997 年刊行の『長野県植物誌』の執筆、丹沢大山自然環境総合調査の報告書、山と溪谷社の『樹に咲く花』の執筆などが重なり、多忙な執筆活動をされていたと思う。『長野県植物誌』ではゴマノハグサ科やハマウツボ科など 12 科を担当された。『神奈川県植物誌 2001』の執筆では『神奈川県植物誌 1988』で担当された科の他にシナノキ科、アオイ科、グミ科、スミレ科、ツツジ科を担当された。

高橋先生は県立博物館を定年退職された 1995 年からは横浜植物会の会長を務められ、24 年間の長い間、会長として会員の指導にあたられた。この間に会長として『横浜植物誌 2003』を刊行している。2013 年頃より、体調を崩され、横浜植物会の行事や執筆活動からは退かれていた。2018 年の夏の終わり頃、高橋先生が生命の星・地球博物館を訪ねて来られ、横浜植物会の会長を引き継いで欲しいと頼まれた。2018 年 12 月には『神奈川県植物誌 2018』が完成し、私自身も 2019 年 3 月末をもって生命の星・地球博物館の再任用も辞する予定だった。一区切りついた良い機会と思い、2019 年 1 月の総会で会長就任を引き受けることにした。年が明けた、2019 年 1 月 13 日（平成 31 年）、1 月 20

日開催の総会を待たずに高橋秀男先生は84才で亡くなられた。『神奈川県植物誌1988』のための調査と刊行、神奈川県立博物館への就職、退職後の横浜植物会会長と、私は高橋先生の後を追っているようだ。

高橋秀男氏業績（高橋氏が単著の場合は著者名を略した）

【著書】

- 1959 針ノ木岳における高等植物フロラ（第一報）:150-172. 中村武久・高橋秀男・丸山晃, 針ノ木峠周辺開発年譜 :175-184. 大町山岳博物館編, 針ノ木岳 自然とその保護. 大町市商工観光課
- 1964 雷鳥の生活. 大町山岳博物館編著, 第一法規出版. 羽田健三・平林国男・高橋秀男・千葉彬司・海川庄一・福島融・長沢修介・中島克広・三石紘
- 1970 自然の観察アルバム4 外国からきた動・植物. 第一法規出版. 宮下和喜・高橋秀男
- 1971 フォッサ・マグナ要素の植物. 神奈川県立博物館調査研究報告自然科学第2号. 神奈川県立博物館
- 1972 日本アルプスの父 ウェストン氏をしのぶ :37-42, 山でつくられた郷土の科学者 河野齡蔵先生 :48-49. 大町山岳博物館編, 北アルプス博物誌Ⅰ 登山・民俗. 信濃路
- 1973 後立山山麓のサクラ :43-46, 居谷里湿原の植物 :59-63, 風味を呼ぶ山菜三題 :72-74, 食用野草のこと :74-78, 高山植物雑記 :109-114. 大町山岳博物館編, 北アルプス博物誌Ⅱ 植物・地学. 信濃路
- 1974 失われゆく自然 植物の場合 :189-191, カモシカを追って :240-244, 爺ヶ岳ライチョウ調査行 :262-269 平林国男・高橋秀男, 信濃大町の白鳥物語 :302-306. 大町山岳博物館編, 北アルプス博物誌Ⅲ 動物・自然保護. 信濃路
- 1974 高瀬川上流域とその周辺山岳地帯のフロラ. 高瀬川流域自然総合調査委員会編, 高瀬川流域自然総合調査報告書 :295-369. 高橋秀男・平林国男
- 1976 乗鞍岳におけるライチョウの生活と保護について. 乗鞍岳一帯における総合学術調査団編, 乗鞍の自然と文化—総合学術報告書. 長野県 :193-220. 羽田健三・高橋秀男・岸元良輔・

真殿博行

- 1977 ライチョウ生息環境調査報告書 朝日岳・剣岳・大日岳・薬師岳. 富山県. 羽田健三・平林国男・北原正宣・岸本良輔・小柳奈津江・宮野典夫・中山洌・高橋秀男・土岐惣亮
- 1978 教養カラー文庫日本植物図鑑1 野の花 春から初夏. 社会思想社
- 1978 教養カラー文庫日本植物図鑑3 野の花 秋. 社会思想社
- 1978 教養カラー文庫日本植物図鑑8 高山と亜高山の花. 社会思想社. 大場達之・高橋秀男
- 1979 胃内容物からみたニホンカモシカの食性について. 鳥獣害性調査報告書. 環境庁 :29-51. 山口佳秀・高橋秀男
- 1979 木曾山脈太田切川流域のフロラ. 中央アルプス太田切川流域の自然と文化総合調査報告書 :415-520. 高橋秀男・横山義雄・丸山すみ子
- 1979 日本アルプスの花と蝶. 創土社. 大場達之・河野昭一・里見信生・清水建美・高橋秀男・豊国秀夫・鳴橋直弘・橋本竹二郎ほか
- 1981 常念山脈烏川流域のフロラ. 北アルプス烏川流域の自然と文化総合学術調査報告書 :427-477
- 1981 高瀬川七倉及び高瀬ダムの建設がフロラと植生に及ぼす影響について. 高瀬川流域自然総合追跡調査報告書 :77-102
- 1982 カモシカを追って. 白馬・後立山連峰（現代山岳紀行）:97-103. あるつく社
- 1983 北ア南部の高山植物. 今西錦司・井上靖監修, 日本の名山9 槍・穂高と南部北アルプス. ぎょうせい :68-73
- 1983 植物相. 郷土環境保全地域候補地学術調査報告書 [鷹狩山]. 長野県 :7-21
- 1984 世界文化生物大図鑑1 植物Ⅰ・同2 植物Ⅱ. 世界文化社. 高橋秀男・中川重年 編・監修, 高橋ほか著.
- 1984 第4編植物. 大町市史編纂委員会編, 大町市史第1巻自然環境. 大町市 :541-744. 平林国男・高橋秀男ほか
- 1984 大町市産植物目録. 大町市史編纂委員会編, 大町市史 第1巻自然環境資料. 大町市 :1-118. 高橋秀男・吉沢健
- 1985 JTB ブックスカラー図鑑10 高山植物. 日本交通公社出版事業局
- 1985 万有ガイド・シリーズ33 日本アルプスの花. 小学館. 大場達之・高橋秀男

- 1985 パーフェクトシリーズ 19 植物カラーガイド
図鑑. 講談社. 大場達之・高橋秀男
- 1987 アウトドア・シリーズ 126 高山植物ウォッ
チング. 日本交通公社出版事業局
- 1987 寺家町の植物. 中村一恵・高桑正敏編 神奈川
県立博物館監修, 寺家の自然. 横浜ふるさと村
自然と文化の会 :98-119
- 1988 ユリ科 :412-449, ツチトリモチ科 :588, ケシ
科 :696-701, フウチョウソウ科 :702, ベンケイ
ソウ科 :732-739, トベラ科 :738-739, ユキノシ
タ科草本 :740-751, カタバミ科 :850-853, リン
ドウ科 :1046-1051, ミツガシワ科 :1050-1051,
イワタバコ科 :1150, オオバコ科 :1154-1155,
キク科アザミ属 :1281-1287 神奈川県植物誌調
査会・神奈川県立博物館編, 神奈川県植物誌.
神奈川県立博物館
- 1990 山野草ウォッチング 草木を観る、撮る、つく
る. 立風書房
- 1990 日本列島花百景. 毎日新聞社. 高橋秀男・小
林純子
- 1990 野草大図鑑. 北隆館. 高橋秀男監修, 勝山輝男・
城川四郎編集協力, 高橋秀男ほか著
- 1991 樹木大図鑑. 北隆館. 高橋秀男監修, 勝山輝男・
城川四郎編集協力, 高橋秀男ほか著
- 1991 中津川溪谷の植物相. 自然教育活動のための
宮ヶ瀬自然環境基礎調査報告書. 日本自然保護
協会 :1 - 27. 高橋秀男・城川四郎・勝山輝男
- 1993 スミレもタンポポもなぜこんなにたくましい
のかー人に踏まれて強くなる雑草学入門. PHP
研究所. 森茂弥・勝山輝男・城川四郎・高橋秀
男
- 1993 八坂村の植物 :461-559, 植物資料 :565-605.
八坂村誌刊行会編, 八坂村誌自然編. 八坂村.
平林国男・高橋秀男ほか
- 1994 フィールドセレクション 16 高山植物. 北隆
館
- 1994 舞岡町の植物相. 横浜市舞岡町人文と自然
環境の基礎調査. 横浜市舞岡町人文と自然調査
会 :73-92. 高橋秀男・勝山輝男
- 1996 第 4 章 植物. 「白馬の歩み」編纂委員会編
集, 白馬の歩み (白馬村誌) 第 1 巻自然環境編.
白馬村 :337-455. 平林国男・高橋秀男・吉沢健・
松田行雄・長沢武
- 1996 レッドデータ植物図鑑. 特別展図録 追われる
生きものたちー神奈川県レッドデータ調査が語
るものー神奈川県立生命の星・地球博物館 :12-
32. 勝山輝男・木場英久・田中徳久・高橋秀男
- 1997 調べ学習に役立つ世界の絶滅動物植物図鑑 2
ほろびゆく日本の植物・昆虫. あかね書房. 高
橋秀男・高桑正敏監修・著
- 1997 第 7 章 植物相とその特色 I . 種子植物・シダ
植物. 神奈川県公園協会・丹沢大山自然環境総
合調査団企画委員会編, 丹沢大山自然環境総合
調査報告書. 神奈川県環境部 :543-558. 勝山輝
男・高橋秀男・城川四郎・秋山守・田中徳久
- 1997 丹沢山地の種子植物・シダ植物. 神奈川県公
園協会・丹沢大山自然環境総合調査団企画委員
会編, 丹沢大山自然環境総合調査報告書 丹沢山
地動植物目録 :331-382. 神奈川県環境部. 勝
山輝男・高橋秀男・城川四郎・秋山守・田中徳
久
- 1997 植物相. 神奈川植物研究会編, 小田原市緑の
環境保全地区調査報告書ー曽我谷津弓張の滝地
区ー. 神奈川植物研究会 :31-70. 勝山輝男・木
場英久・高橋秀男・田中徳久
- 1997 植物相. 神奈川植物研究会編, 小田原市緑の
環境保全地区調査報告書ー入生田吾性沢地区
ー. 神奈川植物研究会 :37-90. 勝山輝男・木場
英久・高橋秀男・田中徳久
- 1997 愛川町の植物, 愛川町教育委員会. 高橋秀男・
山口勇一
- 1997 ミュージアムブックレット (5) フォッサ・マ
グナ要素の植物ー富士・箱根・伊豆に特有な植
物たちー. 神奈川県立生命の星・地球博物館.
勝山輝男・高橋秀男・木場英久・田中徳久
- 1997 ウマノスズクサ科 :304-308 高橋秀男・菅原
敬, マヤゴボウ科 :421-423, スベリヒコ科 :430-
431, ザクロソウ科 :431-433, アオイ科 :493-
498, ヤブコウジ科 :610-611, ツチトリモチ
科 :774-775, マチン科 :879, アワゴケ科 :959-
960, フジウツギ科 :962-963, ゴマノハグサ
科 :972-1003, ハマウツボ科 :1005-1007, 長
野県の植物地理第 2 章 3. 大町市, 北安曇地区
1577-1586 高橋秀男・平林国男. 長野県植物
誌編纂委員会編, 清水建美監修 長野県植物誌.
信濃毎日新聞社
- 1998 草土花図鑑シリーズ 7 花図鑑 野草. 草土出
版
- 1999 神奈川のスミレウォッチング :四季を彩る植
物たち. オールプランナー
- 1999 日本アルプス植物図鑑. 八坂書房. 大場達之・
高橋秀男

- 1999「神奈川県植物分布図集 1999」の解説と今後の課題. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物分布図集 1999. 神奈川県立生命の星・地球博物館 :5-9. 勝山輝男・木場英久・田中徳久・高橋秀男
- 2000 綾瀬市史調査報告書第2集 動物・植物データ集 (植物相). 綾瀬市. 森山守・佐藤恭子・諏訪哲夫・高橋秀男
- 2000 山溪ハンディ図鑑 3 樹に咲く花 離弁花 1. 山と溪谷社. 高橋秀男・勝山輝男監修, 茂木透写真, 高橋・勝山・崎尾均・吉山寛ほか解説
- 2000 山溪ハンディ図鑑 4 樹に咲く花 離弁花 2. 山と溪谷社. 高橋秀男・勝山輝男監修, 茂木透写真, 高橋・勝山・石井英美・太田和夫ほか解説
- 2001 山溪ハンディ図鑑 5 樹に咲く花 合弁花・単子葉・裸子植物. 山と溪谷社. 高橋秀男・勝山輝男監修, 茂木透写真, 高橋・勝山・城川四郎・中川重年ほか解説
- 2001 ホンゴウソウ科 :190 山内好孝・高橋秀男, ユリ科 :191-224 木場英久・高橋秀男, ツチトリモチ科 :591, ケシ科 :740-746, フウチョウソウ科 :746, ベンケイソウ科 :781-788, ユキノシタ科 :788-807 高橋秀男・長谷川義人, トベラ科 :807, シナノキ科 :990-991, アオイ科 :991-999, グミ科 :1004-1008, スミレ科 :1009-1023, ツツジ科 :1094-1105, キク科 :1315-1444 大場達之・勝山輝男・高橋秀男・田中徳久・根本平・浜口哲一・支倉千賀子. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2001. 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 2001 宮代コレクション標本目録. 宮代コレクション植物標本目録作成編集委員会編, 宮代コレクション植物標本目録. 横浜市こども植物園 :35-202. 田中徳久・高橋秀男編
- 2002 ポケット版学研の図鑑 2 植物. 学研
- 2002 山北町の植物. 山北町編, 山北町の自然—山北町史別冊—. 山北町 :187-265. 勝山輝男・木場英久・高橋秀男・田中徳久
- 2003 II 植物相の概要 分布上注目すべき特徴ある維管束植物 :27-34, クルミ科 :461-462, ビャクダン科 :518-519, ヤドリギ科 :520, ウマノスズクサ科 :633-636, ケシ科 :646-652, フウチョウソウ科 :653, アオイ科 :845-853, グミ科 :856-860, ツツジ科 :932-935, ヒルガオ科 :977-986, ネナシカズラ科 :986-987, クマツヅラ科 :997-1003, シソ科 :1006-1036 山崎泰子・田中徳久・高橋秀男, トビックス 明治中期の横浜 :1027, ハイネの原画によるペリー提督・将兵上陸の図 :1239, 近代街路樹発祥の地 1254. 高橋秀男・勝山輝男・田中徳久監修・横浜植物会編, 横浜の植物. 横浜植物会
- 2003 ザクロソウ科 :51-52, ツルナ科 :52, スベリヒユ科 :52-53, ツルムラサキ科 :53, アオイ科 :135-140, スミレ科 :141, キク科 :197-235 大場秀章・門田裕一・清水建美・副島顕子・高橋秀男. 清水建美編, 日本の帰化植物. 平凡社
- 2003 グミ科 :373-375, スミレ科 :375-380. 財団法人千葉県史料研究財団編, 千葉県の自然誌別編 4 千葉県植物誌. 千葉県
- 2004 高麗山樹木目録. 大磯町教育委員会編, 高麗山南面の樹木—大磯町文化財調査報告書第 47 集—. 大磯町 :12-23. 高橋秀男・田中徳久・北水慶一
- 2006 帰化植物の広がり. 神奈川県自然保護協会編著, よみもの神奈川自然誌 海・山・街のいのちをつなぐ. 神奈川出版社 :225-249
- 2006 刊行のことば. 平林國男先生遺稿集刊行会編集 (代表 高橋秀男), ナーゲルとキスリングと—平林國男先生遺稿集—. ほおずき書籍
- 2009 宮代コレクションのレッドデータ植物と海外の標本. 横浜植物会創立 100 周年記念事業委員会編, 横浜植物会の歴史—創立 100 周年記念誌—. 横浜植物会 :298-319. 高橋秀男・田中徳久
- 2010 知識ゼロからの野草図鑑. 幻冬舎. 高橋秀男・ネイチャープロ編集室
- 2010 新ポケット版学研の図鑑 2 植物. 学習研究社
- 2011 牧野植物同好会の 100 周年を祝う. 牧野植物同好会創立 100 周年記念誌 Makino100: 1911-2011. 牧野植物同好会 :15-16
- 2012 新ポケット版学研の図鑑 13 危険・有毒生物. 学習研究社. 今泉忠明・高橋秀男
- 2013 新ポケット版学研の図鑑 16 自然観察. 学習研究社. 今泉忠明・高橋秀男・武田正倫・小宮輝之・岡島秀治
- 【監修】
- 1988 守ろう日本の自然 わたしたちの天然記念物 1 動物たち, 2 鳥のなかま, 3 は虫類・両生類・魚・こん虫, 4 美しい草花, 5 大きな木・豊かな森, 6 めずらしい地形や岩石, 7 美しい大自然. 学習研究社. 河合雅雄・高橋秀男
- 1993 ディズニーものしりランド 12 ミッキーマウ

- スの花・木・くだもの・やさい. 学習研究社
 1996 いがりまさし著 山溪ハンディ図鑑 6 日本の
 スミレ. 山と溪谷社
 1996 ふしぎ・びっくり!? こども図鑑 くさばな.
 学習研究社. 高橋秀男・真室哲也
 1997 鈴木庸夫・長塚洋二著 咲いている場所と花の
 色からすぐわかる 高山植物ガイドブック. 永
 岡書店
 1999 平野隆久写真 見かけた場所ですぐわかる 400
 種 山野草ガイドブック. 永岡書店
 2002 原色ワイド図鑑 12 野草. 学習研究社. 本田
 正次・矢野佐・高橋秀男
 2002 ポケット版 植物. 学習研究社
 2003 フィールドベスト図鑑 日本の山菜. 学習研究
 社
 2004 フレーベル館の図鑑ナチュラ 2 しょくぶつ.
 フレーベル館
 2005 大地佳子著 これだけは知っておきたい! 22 植
 物の大常識. ポプラ社
 2009 学研もちあるき図鑑 まるごと日本の生きも
 の. 学習研究社. 木村義志・小宮輝之・高橋秀
 男
 2010 ネイチャー・プロ編集室著 知識ゼロからの野
 草図鑑. 幻冬舎
 2011 荒井真紀著 あさがお. 金の星社
 2011 葉っぱで見わかる樹木ハンドブック. 池田書
 店
 2013 荒井真紀著 ひまわり. 金の星社
 2016 荒井真紀著 たんぽぽ. 金の星社

【論文・館報・会報その他】

- 「長野県植物研究会誌」長野県植物研究会
 1969 ハナカエデの生態学的研究 (I)- 自生地におけ
 る植物相と植生. 2:1-16. 平林国男・高橋秀男
 1977 木曽郡南木曽町柿其で発見した長野県新産植
 物 2 種. 10:128-129. 橋渡勝也・高橋秀男
 1979 長野県のアメリカネナシカズラ. 12:34
 1982 タルマイスゲの新産地. 15:10-11. 山崎惇・
 高橋秀男
 1987 タチヒルガオが長野県に帰化する. 20:116-
 117. 高橋秀男・横内文人
 1987 遠山川支流北又沢におけるヤシャイノデの分
 布. 20:125-128
 1992 伊那谷産サツキヒナノウスツボについて.
 25:1-3
 1995 御座山の植物目録. 28:39-51. 池田登志男・

- 高橋秀男・友野増夫・中山洸
 1998 ミチタネツケバナ. 「長野県植物誌」補遺 清
 水健美 (編). 31:41
 「山と博物館」市立大町山岳博物館
 1957 河野齡蔵先生一山でつくられた郷土の科学
 者. No.23:3
 1959 針ノ木峠に関する資料. 4(3):2-3, 4(4):2-3,
 4(5):4
 1959 風味を呼ぶ山菜三題. 4(5):4
 1959 知床半島を探索 (1) ハイマツの中の 10 日間.
 4(8):2-4, 同 (2). 4(9):2-5
 1960 信濃大町の白鳥物語 (1). 5(4,5):6-7, 同 (2).
 5(6):7
 1961 山博学芸員の仕事. 6(11):25
 1962 食用野草のこと. 7(4):2-3
 1962 “日本アルプスの父” ウェストン氏をしのぶ.
 7(5):4-6
 1962 高山植物雑記. 7(7):4-6
 1963 爺ガ岳 雷鳥調査行 (2). 8(5):2-7, 同 (3).
 8(6):2-5
 1964 カモシカを追って. 9(4):2-3
 1966 居谷里湿原の植物. 11(10):2-3
 1968 失なわれゆく自然 (3). 13(2):4
 1970 シナノサイコ. 15(4):4
 1971 後立山山麓のサクラ. 16(4):4
 1972 風変わった植物二題. 17(4):3
 1973 安曇平の帰化植物. 18(6):2-3
 1981 高山・亜高山の希少植物. 26(7):2-3
 「大町山岳博物館研究報告」大町山岳博物館
 1960 居谷里湿原の高等植物. 1:143-170. 中村武久・
 平林国男・高橋秀男
 「神奈川県立博物館研究報告 自然科学」神奈川県立
 博物館, 神奈川県立生命の星・地球博物館
 1969 白馬・後立山連峰とその東方山麓のフロア.
 1(3):1-83. 高橋秀男・中村武久・平林国男
 1971 日本産高山植物ノート (1). 1(4):18-24
 1972 センブリ属一変種一品種. 1(5):1-4
 1973 日本産高山植物ノート (2). 6:95-111
 1974 日本産高山植物ノート (3) - 日本産キバナノ
 コマノツメとタカネスミレについて-. 7:1-22
 1975 日本産高山植物ノート (4) - チョウジコメツ
 ツジについて-. 8:107-118
 1976 ヒメタケシマランとその近縁種との比較 及び
 ヒメタケシマランの染色体. 9:1-8
 1977 日本産キバナノコマノツメ群とタカネスミレ
 群の染色体数. 10:43-50

- 1980 日本産高山植物ノート (5) -ハイツメクサとユキクラトウウチソウについて-, 12:1-6
- 1982 維管束植物による相模川流域の環境評価 I フロラ, 13:91-127
- 1983 日本産タケシマラン属の分類学的研究 I 染色体数 (1), 14:11-25
- 1991 日本産コゴメウツギ属の新変種・新雑種, 20:11-19
- 1992 ハコネコメツツジとオオシマツツジの自然雑種について, 21:59-71. 高橋秀男・勝山輝男
- 1993 長野県産ゴマノハグサ科・コゴメグサ属とゴマノハグサ属の検討, 22:43-52
- 「神奈川県立博物館だより」神奈川県立博物館
- 1970 湘南海岸の帰化植物, 2(6):6
- 1973 神奈川県内の滅びゆく植物, 5(6):6
- 1973 県内産植物 4 種の新産地, 7(3):6
- 「神奈川自然誌資料」神奈川県立博物館, 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 1980 神奈川県内のスミレ, 1:29-37
- 1981 神奈川県内のマヤラン類, 2:47-54. 柳川定春・高橋秀男・大場達之
- 1984 丹沢のアオベンケイ, 5:70
- 1985 神奈川県内の植物地理, 6:1-11
- 1986 クロムヨウランについて, 7:85-88
- 1987 丹沢山地におけるアザミ属の自然雑種, 8:49-52
- 1991 神奈川県におけるサツキの分布状況, 12:57-60. 勝山輝男・高橋秀男
- 1994 厚木市で発見されたイヌタヌキモとイトモについて, 15:67-70. 吉田文雄・高橋秀男
- 1998 小田原市入生田吾性沢地区の森林群落, 19:79-88. 田中徳久・勝山輝男・木場英久・高橋秀男
- 1998 小田原市入生田吾性沢地区の植物相, 19:89-100. 高橋秀男・勝山輝男・木場英久・田中徳久
- 2007 「宮代コレクション」の神奈川県レッドデータ植物, 28:29-38. 田中徳久・高橋秀男
- 「植物研究雑誌」株式会社ツムラ
- 1982 木曾山脈産コゴメグサ属の 1 新種, 57(4):120-124
- 1985 高等植物分布資料 (114) イズカニコウモリ, 60(5):32. 高橋秀男・長谷川義人
- 1988 ミカワイヌノヒゲの 1 新変種, 63(4):153-157. 高橋秀男・鈴木英俊
- 1993 オドリコソウ属の新帰化植物, 68(1):55-57
- 1998 コウゾシマヤマツツジの雑種説を支持する証拠, 73(3):170-173. 高橋秀男・勝山輝男・井上健・小沢正幸
- 1998 Recently Rediscovered Type Materials of Orchids Described by Dr. Fukuyama and Dr. Masamune, 73(4):199-230. 井上健・勝山輝男・高橋秀男・秋山守
- 2006 テマリフジアザミー白山産フジアザミの 1 型, 81(2):121-123
- 「北陸の植物」北陸の植物の会
- 1972 伊豆諸島植物採集記 (一), 20(1):14-16
- 1972 伊豆諸島植物採集記 (二), 20(2):42-44
- 1973 伊豆諸島植物採集記 (三), 21(1):19-22
- 「植物採集ニュース」(奥山春季監修)
- 1965 「志賀高原の植物」に追加, 17:27
- 1966 八方尾根～唐松岳の植物 (長野県), 26:21-22
- 1967 笹ヶ峰, 乙見山, 小谷温泉の植物―特集の手引き―, 31:59-60
- 1969 アオキランとサカネランの新産地, 45:63
- 1970 南アルプスにおけるトラキチランの第 2 の産地, 48:9
- 「週刊朝日百科 植物の世界」朝日新聞社
- 1997 シカギク 1:66-67, ノコギリソウ 1:67-69, オグルマ 1:73-75, ヤブタバコ 1:75, ハハコグサ 1:75-76, ヤマハハコ 1:76-78
- 1997 ハマウツボ科 2:130, ハマウツボ 2:131-132, オニク 2:132 高橋秀男・滝沢信夫, ナンバンギセル 2:133-136, クマツヅラ 2:262-263, ムラサキ 2:274-275, ヒレハリソウ 2:275-277, ネナシカズラ科 2:302-303
- 1997 シラタマノキ 6:74-75, ヒメシャクナゲ 6:74-77, アセビ 6:85-86 大場達之・高橋秀男, ジムカデ 6:85, ミネズオウ 6:88, セイシカ 6:100 勝山輝男・高橋秀男, バイカツツジ 6:100-102 勝山輝男・高橋秀男, モチツツジ 6:116-119 勝山輝男・高橋秀男, サツキ 6:119-120, ヒカゲツツジ 6:147-148, スミレ 6:262-266, スミレサイシン 6:266-267, シレットコスミレ 6:267, キバナノコマノツメ 6:269-271
- 「自然科学のとびら」神奈川県立生命の星・地球博物館
- 1997 資料紹介 古瀬コレクション～古瀬義氏採集植物標本～, 3(4):32. 勝山輝男・高橋秀男
- 「かながわの自然」神奈川県自然保護協会
- 1969 相模湾の海岸植物, 8:5-7

- 1971 帰化植物. 13:7-8
1972 帰化植物. 18:7-9
1979 山野の帰化植物. 35:12-13
1981 丹沢・箱根の高地の花. 40:7-9
「FLORA KANAGAWA 神奈川県植物誌調査会ニュース」神奈川県植物誌調査会
1979 神奈川県植物誌編さん事業計画, 神奈川県植物誌分布調査メッシュ, 事務局からのお知らせ, 調査会の名簿について, 標本作成について, 経費の負担にご協力を, 横浜・川崎地区の植物誌調査打合せ会, ラベルと標本調査カードについて, FLORA KANAGAWA について. 1:2-4
1980 相模川の植物近況, コミネカエデとナンゴクミネカエデ. 3:10
1980 ハコネウツギ・ニシキウツギ・ケウツギ. 4:15, 第2回ブロック別植物調査ー県央地区ーの記録. 4:17-18
1981 初心者のための標本のつくり方. 9:46-48
1982 サガミニガナ. 12:67
1983 アズマツメクサ. 14:81
1983 三浦半島のソナレマツムシソウ 15:87, 神奈川県のカタバミ類 15:92-93
1984 かながわの稀種・貴重植物 (1) ツクバキンモンソウ. 16:108
1984 かながわの稀種・貴重植物 (2) ムラサキ. 17:118
1985 アメリカスミレサイシン. 21:166. 高橋秀男・大場達之
1985 ヒメヨモギについて. 21:168
1988 ケゲヌマランその後. 25:220
1991 ナカツカナウツギ (コゴメウツギ×カナウツギ) について. 31:338-339
1996 丹沢のサカネラン. 41:437
1996 ケイリュウタチツボスミレが記載された. 43:469, ニューフェイスの浮草・ヒナウキクサ. 43:469-470
1997 神奈川県新記録のテツカエデについて. 44:480-481. 高橋秀男・諏訪哲夫
1998 テツカエデをウリカエデに訂正. 47:533-535. 高橋秀男・諏訪哲夫
1999 先人の標本をたずねて (1) ーハーバリウムの標本調査からー. 48:559-560
2000 先人の標本をたずねて (2) ーハーバリウムの標本調査からー. 49:571-572, 昭和9年に見た天神島の植物ー赤星先生の記録からー. 49:572, 宮ヶ瀬のヒメウラジロとナタネタビラコ. 49:573. 高橋秀男・山口勇一, 本州新産の帰化植物 タマザキフタバムグラ. 49:574. 高橋秀男・林辰雄・金子紀子
2000 日本新産の帰化植物 トックリツメクサ. 50:584-585. 佐々木あや子・勝山輝男・高橋秀男, 新帰化植物 シロノヂシャ. 50:589-590, 顧問の靱山先生ご逝去. 50:594
2003 ツキミマンテマ. 55:672-673
2006 『神植誌 01』刊行後の横浜ブロックの標本登録実績. 62:777. 田中徳久・高橋秀男・堀川美哉
2007 アメリカオニアザミは花期に根生葉がない. 64:788-789, ハマラッキョウが三浦半島黒崎にも分布. 64:795-796. 高橋秀男・堀川美哉
「横浜植物会年報」横浜植物会
1996 横浜市金沢区野島のコハクサンボク (スイカズラ科). 25:33-36
1996 20 フランの肖像画となったド・ソシュール およびド・カンドルについて. 25:93-95. 堀川美哉・高橋秀男
1997 スミレの郵便切手物語. 26:31-34
1997 特集キナバル山の植物とラフレシア観察のたび記録, キナバル山で観察した「ウツボカズラ». 26:64, キナバル山 (4101 m) にひらめいた横浜植物会の会旗. 26:74, キナバル山ンのビロードウツボカズラ. 26:75-76
1998 山くらげ. 27:35-39, マレーシア植物観察記. 27:77-80
1999 コウズシマヤマツツジ追記. 28:39-41, 1998年 NEW Zealand 植物観察の記 28:68-81
2002 横浜植物 90 年のあゆみ及び行事記録. 31:4-14. 田中京子・高橋秀男
2004 マイヅルソウとヒメマイヅルソウの自然雑種. 33:26-29, 「ハマの植物図鑑」目次. 33:63-66. 高橋秀男・渡辺重彦
2005 中国雲南植物雑記. 34:62-66
2006 刊行のことば. 35:1, 伊豆の島々・花見て歩き. 35:27-32, 「カナディアン・ロッキーの花」写真説明. 35:59-61
2007 刊行のことば 失われゆく横浜の植物. 36:15, 同定変更された「宮代コレクション」(1) ー神奈川県レッドデータ植物の標本ー. 36:37-42. 田中徳久・高橋秀男, 済州島の植物観察ノート. 36:79-86, 済州島で観察した主な植物のリスト. 36:97-107. 田中徳久・吉田多美枝・飯野瑞子・高橋秀男

2008 刊行のことば ニホンジカ食害の現状 お花畑の危機. 37:1-2, 日大生物資源科学部博物館へ寄贈された横浜市産の古い標本. 37:42, 北ベトナムの植物断片録. 37:77-83

2009 刊行のことば 地球温暖化と植物の変化. 38:1-2, 台湾で見た高地の花. 38:61

2010 刊行のことば 外来生物. 39:17, 横浜植物会創立 100 周年記念式典 会長のご挨拶. 39:54, 横浜植物会 創立 100 周年記念祝賀会 宴席の前に. 39:58

2011 刊行のことば 横浜市レッドデータ植物. 40:1-2, 神津島のタヌキノショクダイ. 40:30

2012 刊行のことば 黒船が横浜で採集して米国へ持ち帰った植物. 41:21, 牧野植物同好会創立 100 周年を祝う. 41:67, 写真で見るトルコ・カズ山を中心とした植物観察小記. 41:93-99

2013 刊行のことば 横浜市内の植物調査. 42:1-2

2014 堀川先生を偲ぶ. 43:3

「横浜植物会会報」横浜植物会 (発行年・ページ番号を略す)

1995 ~ 2012 「植物観察ノート [1] ~ [64]」連載.

狸が犬に化けたはなし 26(1), フユザンショウ 26(2), グリンデルワイド (GRINDELWALD) でイタドリを見た 26(3), セイヨウオオバコ 26(4), アカガネホウチャクソウ 27(1), ミチタネツケバナ 27(2), アライトツメクサ 27(3), ケイリュウタチツボスミレ 27(4), ツブラジイ 28(1), バケヌカボ 28(2), ウグイスカグラ 28(3), サワシロギク 28(4), ヒロハハノキ 29(1), イボウキクサ 29(2), タシロラン 29(3), ヨコハマカマツカ 29(4), イヌコハコベ 30(1), 雑種のタンポポ 30(2), アメリカスミレサイシン 30(4), シロノヂシャ 31(1), ヤマゲワとマゲワ 31(2), ホソバタチシオデ 31(3), アズミノヘラオモダカ 31(4), 三宅島のハコネコメツツジ 32(2), ヤエオニユリ 32(4), 北海道の針葉樹 33(4), イケノミズハコベ 33(5), トゲミノキツネノボタン 34(2), 植物から見た御蔵島の魅力 35(1), コケイラクサ 35(2), アカウキクサ 35(3), ミズキンバイ 35(4), 大木になるコマツナギ 36(1), ミズヒマワリ 36(2), 衰退してゆくホルトノキ (ホルトノキ科) 36(3), モミに依存するマツグミ (ヤドリギ科) 36(4), 八方尾根の植物 37(1), カシュウイモ 37(2), 伊豆須崎の植物 37(3), コゴメイ 37(4), ミスミソウとスハマソウ 38(1), (1) アズマツメクサ (ベンケイソウ科) ・ (2) コバンバ

コナスビ (サクラソウ科) 38(2), ヒロハノレンリソウ 38(3), 1. キンシバイ ・ 2. アカバセンニチコウ 38(4), アメリカホド 39(1), ドクウツギとヒマラヤドクウツギ 39(2), シュロ 39(3), 横浜に 1 本だけのシュロ 39(4), フウリンユキアサガオが横浜に現る ・ センダングサ (在来種) とコセンダングサ (帰化種) 39(5), 定着してきたシュロガヤツリ 40(1), アボイ岳の春の花 40(2), 平塚海岸で見た砂丘の植物 39(2), (1) 可憐なアフリカフウチョウソウ ・ (2) グラウンドを敷き詰めたメリケンムグラ 41(1), (1) アフリカヒメアヤメ (アヤメ科) が神津島に帰化 ・ (2) ヒメミクリガヤツリ (カヤツリグサ科) の帰化 41(2), ギンギツネの異名をもつシロガネチカラシバ ・ ニセコバンソウ 41(3), 水田のあぜに群生していたアメリカミズユキノシタ ・ 真っ赤な草、アルテルナソテラ ・ ポリゴノイデス 41(4), (1) 絶滅危惧種のハマホラシノブ ・ (2) 帰化植物的なハウライシダ 42(1), トガクシソウ ・ シラネアオイ 42(2), バイカイチゲ (アネモネ・シルベストリス) ・ ヨツバハコベ (ポリカルボン・テトラフィルム) 42(3), 白馬で見出した新しい型のフジアザミ 42(4), 我が家の近くに見られる帰化植物 2 種マメカミツレ・メリケントキンソウ 43(1), ノハラムラサキ・ハマワスレナグサ・ワスレナグサ 43(2), 梅ヶ島の谷間で - イワユキノシタ (ユキノシタ科) ・ ヤマイワカガミ (イワウメ科) 43(3), タマムラサキ 43(4), シナノショウキラン 44(1)

「よこはま瓦版」神奈川新聞 (発行年・ページ番号を略す)

2001 ~ 2004 年 「ハマの植物図鑑」連載. ネコノチチ (クロウメモドキ科), オカタイトゴメとヨコハママンネングサ (ベンケイソウ科), シンテッポウユリ (ユリ科), サワシロギク (キク科), オギ・ススキ (イネ科), コハクサンボク (スイカズラ科), マルバアキグミ (グミ科) カントウカンアオイ (ウマノスズクサ科), スハマソウ (キンボウゲ科), キレハヒメオドリコソウ (シソ科), ミチタネツケバナ (アブラナ科), セイヨウヒルガオ (ヒルガオ科), タシロラン (ラン科), イタドリ (タデ科) イソギク (キク科), ネコヤナギ (ヤナギ科), マメカミツレ (キク科), アメリカスミレサイシン (スミレ科), ダイコクマメゲンバイナズナ (アブラナ科) オオマツヨイグサ (アカバナ科), シャクジョウソウ (イチヤク

ソウ科), キクイモ (キク科), セイタカアワダチ
ソウ (キク科), ビワ (バラ科), ミツマタ (ジン
チョウゲ科), アブラナ (アブラナ科), クサボケ
(バラ科)

「岳人」ネイチュアエンタープライズ

1961 針ノ木峠 その信州側と越中側. 158:102-103

1961 岳界群像 59 大町山の会の人びと. 161:82(写
真解説 129)

1962 岳界群像 68 大町山岳博物館の人びと.
171:82 (写真解説 137)

「山と溪谷」山と溪谷社

1975 植物に関する雑学・15 の Q & A. 436:88-
94. 高橋秀男・片岡博

1977 高山植物の一生. 465:118-120

1981 高山植物の基礎知識 (上). 528:135-138

1981 高山植物の基礎知識 (下). 530:135-138

【その他の雑誌】

1962 熊. あしなか 80:32-33. 山村民俗の会

1976 神奈川県におけるタニウツギ類の分類と分布
(予報). 神奈川県博物館協会会報 35:1-10

1979 アメリカネナシカズラをめぐって. 遺伝 33:4

1982 神奈川県植物誌の編さんについて. 日本植物
分類学会会報 4(7):11-15. 大場達之・高橋秀男

1985 おりふしの記 アカイシリンドウ. 悠 2(11):8.
ぎょうせい

1990 第 6 回支部が推薦する博物館情報. 5 東海

支部 (2) 神奈川県博物館協会 35 周年記念
特別展「鎌倉の秘宝」について. 博物館研究
25(12):72-73

1997 特集 地域でみる植物の危機 神奈川の植物は
今. プランタ:植物の自然誌 49:9-14. 研成社.
田中徳久・高橋秀男

1998 小田原市・曾我山の植物相. 横浜国立大学
教育人間科学部理科教育実習施設研究報告
11:53-72. 勝山輝男・高橋秀男・木場英久・田
中徳久・星直斗・遠山三樹夫

<訂正>

56 号掲載の同著者の記事に誤字が多数ありまし
た。お詫びとともに訂正いたします。また、ご指摘
下さった方々に感謝申し上げます。

「長野県植物誌改訂研究史資料 9: 浅野一男」

p.163 右 10-11 行目 誤「イワオウギ軍団」⇒正「イ
ワオウギ群団」

p.163 右 12-13 行目 誤「ヒメカワズスゲ＝ワラ
ハナゴケモドキ軍団」⇒正「ヒメカワズスゲ＝ワラ
ハナゴケモドキ群団」

「長野県植物誌改訂研究史資料 10: 水島正美」

p.169 右 7 行目 誤「京都大学基礎生物学研究所」
⇒正「京都大学理学部附属木曾生物学研究所」

p.170 右写真 2. キャプション 誤「清水健美氏」
⇒正「清水建美氏」

p.174 左 14 行目 誤「42(99:」⇒正「42(9):」

